

緑のエッセー

私が「緑の雇用」の研修を受けたきっかけは、(有)天竜フォレスターに勤務していた知人の紹介で、平成16年1月から3月まで、静岡県浜北森林公園の整備に従事したことでした。

3月までの期間が終了した時、天竜フォレスターの社長から「これからも、うちで働いてみないか」と声をかけられ、働くことになりました。

私の実家がある浜松市天竜区は、豊かな森林に恵まれた地域です。しか

し私自身は、それまで木に関係する仕事と言えば、製材を少し経験したことがあっただけでした。もちろん、実際に生えている木を伐った経験はありませんでしたし、チェーンソー一つにしても本格的に触ったこともありませんでした。

そんな状態で入社して早々、平成16年度「緑の雇用」の基本研修がスタートし、仕事イコール研修の毎日が始まりました。

実地研修が始まって間もない頃、こんなことがありました。ある強風の日のことです。木を伐る時は最初に受け口を切り、次に追いつき口を切って倒すのですが、風が一層強くなったので受け口を切ったまま作業を中断していたら、木が裂け始め、思わぬ方向に倒れてきたのです。その時は幸運にも負傷しませんでした。一つ間違えば木の下敷きになっていたところでした。林業とは、なかなか自分の思い通

りにいかない、技術と熟練を要する仕事であることを痛感させられました。「緑の雇用」の研修には、仕事での実地研修だけでなく、県内各地の研修生が一カ所に集まって行なう集合研修というカリキュラムもあります。富士山の近くで行われた集合研修に参加しましたが、なだらかな山は私がいつも入っている険しい天竜の山とは様子が多々違い、それに伴って使用される機械や技術も異なることが目で見て



平成16年、(有)天竜フォレスター採用後、「緑の雇用」担い手対策事業にて林業の知識・技能を学ぶ。現在は、現場の班長として、主にスキ・ヒノキを中心とした素材生産に携わる。33歳。

分り、とても興味深かったです。

私は、平成20年に森林施業効率化研修を修了しましたが、私の後からもたくさんの方々が入社するようになり、「緑の雇用」制度で山の仕事を学んできています。研修はもちろんですが、ガイダンス等の情報が掲載されている『ミドリプレス』(「緑の雇用」情報誌)等も、そもそも林業の就労情報に触れる機会が少ない若い人が、森の仕事に興味を持つきっかけとして非常に

役立ついると思います。

林業がまったく初めてだった私も、いつのまにか現場の班長として後輩を指導する立場になりました。これから林業を志す人に伝えたいのは、山の仕事は決して楽ではないが、一本一本異なった木を相手にするのはとてもやりがいがあるということ。自分の技術が向上すればするほど先輩のすごさが分かってくると思います。今後は、さらに技術を研鑽していきたいと思っています。